

日本とインドネシアの若手ソーシャル リーダー育成・交流事業 ‘Gerakan Mari Berbagi’ (共に分かち合おう) プログラム



主 催： 特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター
共 催： Gerakan Mari Berbagi 財団



GMB事業概要

- ◆ 目的：『異なる文化や価値観を理解・共有し、広い視野と分かち合いの精神を持って社会に貢献できる次世代リーダーの育成』
- ◆ 設立背景：2012年にインドネシアの起業家アズフル・ハサン氏が自身の体験から、幅広い視野を持つ若者を育成するためにオーストラリアでのホームステイプログラムを開始したことで始まった。それに、当法人の役員が理事として参画したことから、2014年から派遣国に日本が加わり、相互交流事業としてプログラムが発展。
- ◆ 内容：身近な社会問題の解決に必要な多様な視点やリーダーシップを習得するための研修、海外でのホームステイやインターンシップの機会の提供。

＊社会事業への参画、リーダーシップ研修等を経て選抜された研修生は、互いの国の一般家庭でホームステイしながら、自身の興味ある分野で2週間～1ヵ月の研修に参加。

1st Year: 2014.11.6-11.27

インドネシア研修生6名が来日

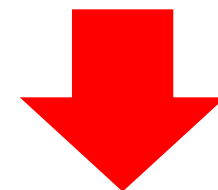


＜3週間：東京
& 京都＞
水や廃棄物処理施設、障害者支援団体、製造工場、大学ベンチャー、学校、起業支援やホームレスの現状・支援団体等への訪問で、視察研修とホームステイがメイン。
これに、文化体験・日本人の若者との交流等を行った。

社会事業の発信と若者との交流



京都大学でのトレードフェアで、自分達が取り組む社会事業の発表と販売、プログラムの紹介、若者達と一緒にワークショップに参加しての交流等



日本人学生が大いに刺激を受けたことから日本との相互プログラムへ発展

2nd Year:2015日本プログラムスタート

研修生選抜とメンバー会議

- 1月から応募を開始。書類選考を経て、候補生の決定。
- 4月～7月にかけて2週間に1度、選抜生による研修会議を実施。
- 各自が取り組む社会事業について計画をたて、進捗状況を全体で共有。
- 一緒に実施する資金調達活動についての目標設定・戦略等について議論。



資金調達に挑戦：クラウドファンディング

日本最大級のクラウドファンドサイト「JapanGiving」で資金調達活動を開始。セミナー等で広報・宣伝を行い、寄付者を募りました。研修生にとって良い学習に。

お金が集まらず、苦戦



The screenshot shows the JapanGiving website interface. At the top, there are navigation links for 'NPO-チャレンジに寄付する' (Donate to NPO Challenge), 'NPO-チャレンジを登録する' (Register NPO Challenge), 'JapanGivingを知る' (Learn about JapanGiving), and 'ログイン' (Login). Below the header, the challenge title is '社会問題はビジネスチャンスの宝庫??-インドネシアの学生とゴミビジネスを考案したいー'. The challenge details show a current donation amount of ¥42,000, which is 7% of the target amount of ¥600,000. The challenge has ended, and there are 7 supporters. A photo of a group of people is displayed on the left. The right side of the page shows the progress bar and the number of supporters.

JAPANGIVING. NPO-チャレンジに寄付する NPO-チャレンジを登録する JapanGivingを知る ログイン

社会問題はビジネスチャンスの宝庫??-インドネシアの学生とゴミビジネスを考案したいー

チャレンジ詳細 活動報告 寄付者コメント

現在の寄付金額 ¥42,000

達成状況 7%

目標の寄付金額は600,000円に設定されています。

① 残り期間 終了しています

② サポーター 7人

寄付を集めるチャレンジャーの情報

私たちはインドネシアの非営利団体Gerakan Mari Berbagi (共に分かち合う)や日本のNPOと連携して、社会問題とビジネスチャンスの宝庫を模索しています。



資金調達に挑戦：インドネシア料理の会

京都市にある日替わり店長が体験できるレストラン「魔法にかかったロバ」にて、インドネシア人が作る本格インドネシア料理店を1日限定オープン。店内は沢山のお客様で賑わいました。

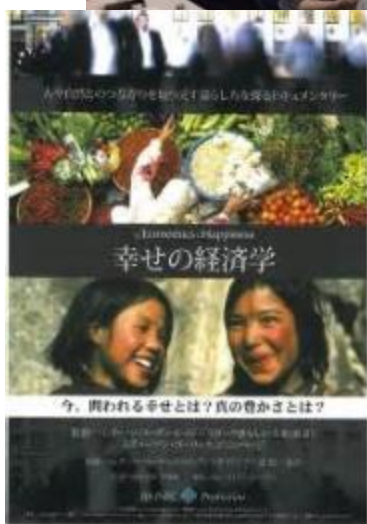


インドネシアを紹介し、
楽しみながら
資金調達

社会事業を通じて資金調達：映画上映会

資金調達活動の一環として、2度映画上映会を開催

集客に苦労
しました



「幸せの経済学」



「アクト・オブ・キリング」



各自事業の中間報告会

- ・ 各自これまでの取り組んできた社会事業についての成果と反省を発表
- ・ 今後の各自の研修計画について議論するとともに、インドネシアのコーディネーターからもスカイプで助言を受ける

資金調達は難しいと実感



英語でのプレゼンもうくなりました



渡航前研修・最終報告会

- 現地滞在に向けての準備講座（滞在中の注意点等）
- 対話型ファシリテーションワークショップを実施し（国際協力の現場で求められる事実質問について学習



2015.8.28-9.14

日本人研修生5名がインドネシアへ



現地の仲間が強力サポート



＜3週間＞
ジャカルタでの合同研修後、
GMBのメンバー
が関わっている
障害者支援
施設やスト
リートチルド
レンの支援団
体等を訪問、
その後、ジョ
グジャカルタ
で、各自が興
味ある分野で
研修（下水処
理、障害者支
援、子ども支
援、権利保護
団体等）

合同ワークショップの実施と交流



友情に国境は
ありません



ガジャマダ大学にてゴミをテーマにした講演会やワークショップを現地学生と合同開催。GMBのテーマソングをインドネシア語と日本語で歌ったり、ソーラン節を一緒に踊ったり、若者同志の交流が深まった

社会事業の実践 ～お世話になったことを返す～



現地で
贈呈

帰国後、12月まで活動し、研修先の障害児童養護施設の子どもの絵を使ってノートやタンブラーを作成し、収益金で施設の子どもが芸術活動ができるようにタブレット・タッチペン・カメラを寄付。



3rd Year: 2016.3.23-4.18

インドネシア研修生6名が来日



お料理での
おもてなし



＜4週間京都＞
日本人研修生
が率先して
ホームステイ
を受け、
来日時には、
料理をして研
修生やホスト
ファミリーを
持てなしたり、
文化活動を一
緒におこなっ
たり、のリー
ダーシップ研
修を日本の学
生達と合同実
施。交流を深
めた。

研修内容も充実



日本語できなくても、手話で会話



各自の興味に合わせた研修先をマッチングし、その後のキャリアに大きな影響を与える充実した経験を得ることができた。

2016.8.24-9.5

インドネシア・日本の合同研修



寝起きを
ともに2週
間



一緒にキャン
プをし、ジョ
グジャカルタ
からジャカル
タまで旅をし
て、ジャカル
タでリーダー
シップ研修を
行う

インドネシア
人50名、日本
人研修生4名参
加



社会事業の実践 ～研修の準備をかねて～

ハロウィン 企画

10月29日(土) 10:00～20:00
堀川会議室(堀川商店街内)

🎃ジャック・オ・ランタン作り教室🎃

①10:00～②13:00～③15:00～

参加費:1,500円(同伴者500円)
(カボチャスープとお菓子付)

*①②はトリック・オア・トリートに挑戦!

*毎回、ランタンが完成したら、カボチャのスープを飲みながらクイズに挑戦するなどして参加者交流したり、1回目と2回目希望者は商店街を歩いてお菓子をもらうTrick or Treatに挑戦します。



Hallow

参加費
(500円)

*タンブ
の絵画教室
界に一つ

10/29(土) 仮装

主催: NPO法人アトレプレナーシップ開発センター
共催: 堀川商店街協同組合
協力: NPO法人エクスクラメーション・スタイル KYOGOKU



研修先のバリにある絵画教室に寄付するため、そこに通う子供が描いた絵を使ってタンブラーを販売したり、ハロウィンイベントをして集まった寄付を贈呈。

現地で贈呈式



4th Year: 2017.2.25-3.21

日本人研修生4名がインドネシアへ



現地の仲間
が通訳でサ
ポート



＜4週間：バリ＞
現地の小・中・
高等学校で日本
語の指導や日本
の紹介だけでなく、村の若者に
ゴミ問題の啓発
セミナーをしたり、
高校生が主
体的にゴミを減
らすプロジェク
トや村をプロ
モーションする
ビデオを作成し
たりした。
研修生の指導を
見て、現地の指
導者が刺激を受
けた。

社会事業の実践

～ミニ図書館寄付プロジェクト～



寄付者には
子どもの絵
をプレゼン
ト

研修したスラット村には図書館がないことから、経済的に恵まれない子にも本を読む楽しさを知ってもらうため、寄付金を募り、お礼にバリの子どもの絵を渡して、16万円を集め、500冊以上の本を贈呈。現地の高校生や大学生が、本の管理や子どもへの読み聞かせなどを支援している。



5th Year: 2018.2.18-3.17

インドネシアの研修生7名が来日



＜4週間：京都＞
研修先で、与えられた仕事をこなし、互いにメリットのある研修に

2年前の研修生
がリーダーで
再来日



6th Year: 2019.2月中旬～3月中旬

日本人研修生5名程度を派遣予定

